

第20号編集担当（2025年度研究委員会）

伊藤 冬樹	（研究委員長）	信州大学学術研究院教育学系
小野 文子	（編集長）	信州大学学術研究院教育学系
大木 雄太	（副編集長）	信州大学学術研究院教育学系
植原 俊晴	（編集長補佐）	信州大学学術研究院教育学系
瀧 直也		信州大学学術研究院教育学系
野口 舞子		信州大学学術研究院教育学系
水口 崇		信州大学学術研究院教育学系
森下 孟		信州大学学術研究院教育学系
水津 幸江	（事務担当）	信州大学教育学部図書館

英文題目校閲協力

DALTON Colleen

信州大学グローバル化推進センター

編集後記

ここに、『信州大学教育学部研究論集』第20号を刊行し、皆様にお届けいたします。本号には、厳正な審査プロセスを経た学術論文5編、研究報告8編、実践研究5編、実践報告4編の、合計23編に及ぶ意欲的な成果を掲載いたしました。また、今号における新たな試みとして「特集」カテゴリーを新設いたしました。ここには、英国グラスゴー大学と信州大学教育学部が共同で開催したオンライン・ワークショップにおける、本学部側からの発表原稿を収録しております。記念すべき第20号において、こうした国際的な交流の記録を形にできたことは、本誌にとっても大きな一歩となりました。

本研究論集は、信州大学教育学部における研究・教育活動を多角的に促進し、その基盤となる成果を広く公表することを不変の目的として発行しております。今号においては、本学部の教員諸氏のみならず、在学生・修了生からも多くの投稿が寄せられました。このことは、本学部を拠点とした研究・教育活動が卒業・修了後も途絶えることなく、継続されていることを示しています。本研究論集が広く研究発表のプラットフォームとして、一定の役割を担うことができていると実感しております。

このように充実した一冊を発行することができたのは、ひとえに執筆者の皆様、そして厳正な評価を賜りました査読者のみなさまの尽力によるものです。本研究論集の発行に際し、多大なる御助力をいただきました関係各位に対し、ここに深甚なる謝意を表したいと存じます。今後とも本誌が、本学部における知の結集の場として、さらなる発展を遂げることを祈念し、巻末の挨拶とさせていただきます。

（小野文子・大木雄太・植原俊晴）